



ぶつけると「こぶ」ができるのはどうして

「こぶ」ができるのは

「こぶ」は、皮膚の下に血のたまったものです。こぶができるのは、頭のように固い骨が、皮膚のすぐ下にあるところです。おしりのような、やわらかいところにはできません。体じゅう、皮膚の下には、細い血管がたくさん通っています。体を強くぶついたりたたいたりすると、皮膚の下の血管が破れ血が出ますが、外に血が出ず、皮膚の下に流れ出ることがあり、これを内出血といいます。出血した血は、おしりのようなやわらかいところでは、あまり外へふくらんできません。しかし、頭のようにかたい骨が、皮膚のすぐ下にあるときには、血が内側へ広がることのできないため、外側へふくらんでしまうのです。

こぶの手当ては

破れた血管は、体のはたらきで自然にふさがり、血も吸収されてしまいますので、こぶはやがてなくなります。しかし、こぶができたときには、ぬれたタオルなどで、すぐに冷やしましょう。痛みがやわらぎ、なおりも早くなります。また、こぶをいじったり、温めたりすると、よけいに痛くなりますので注意しましょう。（監修・保志 宏）

